

序

厚生省母子衛生課所管の心身障害研究課題のうち、小児慢性疾患臓器系に関する研究班は、昭和55年度より「小児慢性疾患の生活指導指針の確立」を共通主題として発足し、本年度で最終年度を迎えた。この主題は慢性疾患児の健康・体力作りという従来と異った発想により研究をすすめられたものであるが、各研究班においてこの思想にもとづいた生活指導指針がまとめられ、この報告書にまとめられることになった。

この各疾患の生活指導指針は各方面よりその設定を要望されていたものであり、本報告書もこの意味で活用されることが期待されるが、各班において尚一層の普及活動すなわち学会誌、その他への発表が望まれるものである。

各研究班の班員は次のごとくである。

「小児慢性疾患（臓器系）に関する研究」
生活指導指針に関する研究

気管支喘息	三河春樹（京都大学小児科）
高脂血症	藪内百治（大阪大学小児科）
川崎病	草川三治（東京女子医大小児科）
心疾患	大国真彦（日本大学小児科）
若年性関節リウマチ	寺脇保（鹿児島大学小児科）
腎疾患	界薫（新潟大学小児科）
エクスプリマチュアチャイルドの長期養護	馬場一雄（日本大学小児科）
小児慢性疾患の精神衛生指導	長畑正道（筑波大学心身障害学系）

各班においてまとめられた生活管理指導指針は、現時点においては最高のもと考えられるが、今後それぞれ実施段階に移った場合のその追跡により、さらに改善してゆくことが必要と考えられる。

また各班において、患児の心理的落ちこみの現状の検討がされたが、この問題は母親を含めた調査と指導が必要であることが明らかにされ、今後の大きな課題の一つになった。

なお本報告書には生活指導指針以外にも多くの貴重な業績が発表されている。御活用を期待するものである。

昭和 58 年 2 月

主任研究員（班長）

日本大学教授 大 国 真 彦



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



厚生省母子衛生課所管の心身障害研究課題のうち、小児慢性疾患臓器系に関する研究班は、昭和 55 年度より「小児慢性疾患の生活指導指針の確立」を共通主題として発足し、本年度で最終年度を迎えた。この主題は慢性疾患児の健康・体力作りという従来と異った発想により研究をすすめられたものであるが、各研究班においてこの思想にもとづいた生活指導指針がまとめられ、この報告書にまとめられることになった。

この各疾患の生活指導指針は各方面よりその設定を要望されていたものであり、本報告書もこの意味で活用されることが期待されるが、各班において尚一層の普及活動すなわち学会誌、その他への発表が望まれるものである。